

公益財団法人かめのり財団

## 平成 25 年度（2013 年度）事業報告

平成 25 年(2013)4 月 1 日～平成 26 年(2014) 3 月 31 日

平成 25 年度主要事業の実施状況と成果を報告する。

基本方針として、定款にうたわれる 3 つの柱

1. 高校生交換留学および大学院アジア留学生への奨学事業
2. 青少年の交流および言語教育支援を助成する国際交流事業
3. それらを推進するために、かめのり賞の顕彰、講演・シンポジウム等  
その基盤整備事業

を実施することにより、日本とアジア・オセアニア諸国との相互理解・国際理解の促進を  
踏ることができた。

### ○重点施策

#### 1. 青少年留学支援事業

##### (1) 高校生交換留学支援

平成 24 年度のかめのり財団アジア・オセアニア高校生交換留学プログラムはアジアから  
の受入のみとし、(公財) AFS 日本協会に委託し、以下のとおり実施した。

年間プログラムは、第 7 期生が日本の各地域で、学校通学、ホームステイを通じて異文  
化体験をし、平成 26 年 2 月に帰国した。不適切な行動により韓国からの受入生 1 名が早期  
帰国する結果となったが、そのほかの受入生は、地域に溶け込み受入家庭の一員として有  
意義な体験をし、各国の社会、文化を学ぶとともに、異文化理解および相互理解を深める  
ことができた。

#### 【高校生交換留学プログラム 実績】

	受 入	
	第 7 期 H24 年度(2012)	第 8 期 H25 年度(2013)
中国	2	1
香港		1
韓国	2	1
インドネシア		1
タイ	1	1
フィリピン	1	1
ネパール	1	1
インド	1	1
合計	8	8

(2) 大学院留学生支援

以下の奨学生 7 名に月額 20 万円を支給した。

平成 25 年度(2013) かめのり大学院留学アジア奨学生

徐 寧教 (韓国)	Mr.SUH Young- Kyo	ソヨンキョ	2011. 4-2014. 3	東京大学大学院 経済学研究科(経営)
金 旻貞 (韓国)	Ms.KIM Min-Jung	キムミンジョン	2011. 4-2014. 3	京都大学大学院 人間・環境学研究科
Ms.Htet Htet Nu Htay(ミャンマー)		テツテツヌタイ	2012. 4-2015. 3	東京外国語大学大学院 総合国際学研究科国際社会専攻
金 智愛 (韓国)	Ms.Kim Jiae	キム ジェ	2012. 4-2014. 3	立命館大学大学院 社会学研究科応用社会学専攻
姜 民護 (韓国)	Mr. Kang Min Ho	カンミンホ	2013. 4-2016. 3	同志社大学大学院 社会学研究科社会福祉学専攻
周 鑫 (中国)	Mr. Zhou Xin	シュウキン	2013. 4-2016. 3	一橋大学大学院 法学研究科法学・国際関係専攻
張 碩 (中国)	Mr. Zhang Shuo	チョウセキ	2013. 4-2015. 3	大阪大学大学院 言語文化研究科日本語・日本文化 専攻

大学院生へのサポートの一環として、平成 25 年 9 月 23 日～25 日、北海道札幌で研修会を実施した。各自の研究テーマの発表と意見交換、研究分野のミニ講義、上級生からの論文指導、現在抱えている課題等を共有することによって、奨学生の状況を把握し、学生同士の親睦を深めるよい機会になった。

また、平成 26 年度採用の「かめのり大学院留学アジア奨学生」の募集・選考を行った。指定校 18 校のうち 10 校から候補生の推薦があり、平成 26 年 2 月 28 日に選考試験(面接)を実施し、奨学生選考委員会により以下の 3 名を奨学生として決定した。

胡 新祥 (中国)	Mr. Hu Xin Xiang	コシンショウ	2014. 3-2017. 3	立教大学大学院 文学研究科日本文学専攻
姜 哲敏 (韓国)	Mr. Kang Cheol Min	カンチョルミン	2014. 4-2017. 3	筑波大学大学院 システム情報工学研究科社会工学専攻
洪驥 (中国)	Mr. Hong Ji	コウキ	2014. 4-2017. 3	早稲田大学大学院 法学研究科公法学専攻

## 2. 青少年交流および言語教育支援事業

### (1) 財団主導事業としての助成

助成審査委員会の審査を経て、以下、助成を行った。

#### ① (公財) YFU 日本国際交流財団

##### 第6期 高校生短期交流プログラム：630万円

(公財) YFU 日本国際交流財団が実施する日韓、日中短期プログラムを支援した。派遣は韓国のみ5名で平成25年8月に行われ、中国は諸事情により見送ることとなった。受入は平成26年1～2月に行われ中国、韓国各5名ずつ、1か月間、学校通学やホームステイを通じて、異文化体験をした。それぞれ意識の高い生徒の参加により、各方面から評価も高くそれぞれの国との相互理解をより深めることができた。短期プログラムは、期間は短いながら生徒に与えるインパクトは大きく、好評で今後も継続して実施したい。

#### ② (一社) 国際フレンドシップ協会

##### 第5回中学生交流プログラム：887万円

(一社)国際フレンドシップ協会が実施した中学生交流プログラム事業を支援した。日越友好40周年を記念して、ベトナムとの相互交流で両国の交流を深めた。派遣は平成25年10月6日～10月13日、全国から選考された8名の中学生がベトナムのハノイ、フエ、ダナンを訪問し、国際交流基金ベトナム日本文化交流センターの協力をえて、ベトナム教育訓練省、国際交流基金への表敬訪問、ハノイのリートゥオン・キエット中学およびグエン・チ・フォン中学で、日本紹介やホームステイの体験を通じて交流した。また、受入はベトナムの8名の中学生が11月10日～18日、東京、京都を訪問し、駐日ベトナム大使館への表敬訪問、企業訪問、ホームステイや文化体験をし、荒川区立原中学で日本の中学生と交流した。日本とベトナムの人々との友好を深めたほか、それぞれの文化、社会を学び、より日本への理解を深め、大変好評であった。

### (2) 国際交流事業の一般公募助成

一般公募で、日本とアジア・オセアニアの国際相互理解の増進に寄与する大学生交流事業はじめとする国際交流活動、異文化共生活動等を含めた以下の7つのプロジェクトに計256.7万円の助成をした。

- ① 国際交流研究所による「最新の「日本語教材日本」(改訂版)を作成し、中国の大学に寄贈する事業」へ50万円
- ② 日本台湾学生会議による「第8回日本台湾学生会議本開催」へ21万円
- ③ (一社)カンボジア地雷撤去キャンペーンによる「カンボジア地雷・不発弾被害者と日本の学生による国際平和交流事業」42.2へ万円
- ④ 医療系学生による国際協力隊 euphoria による「インドネシア-日本 保健・福祉グループワークキャンプ」へ20万円
- ⑤ 北東アジア学生ラウンドテーブルによる「北東アジア学生ラウンドテーブル2013」へ30万円
- ⑥ (特) 日本国際ボランティアセンターによる「日・タイ若手農民リーダー交流プ

プログラム」へ 50 万円

- ⑦ ボンドラ農園による「フィリピン地方都市交流事業」へ 43.5 万円

但し、本事業は募集を行ったが応募がなく、助成金を返還された。

### (3) 国際交流事業

大学生を対象に（独法）国際交流基金との共催事業として「かめのり地球青少年サミットジャパン2013」を平成 25 年 11 月 1 日～4 日国際交流基金関西国際センターで開催した。アジアから香港中文大学およびタマサート大学の学生を各 5 名招聘し、日本で学ぶ留学生および日本人大学生計 27 名が「アジアの将来に向けた課題と展望」のテーマのもと、今後のアジアの抱える諸問題について、基調講演、講義、共同研究、討論を通じて、参加者は交流を深め、お互いを理解することができた。平成 25 年 11 月 4 日は関西学院会館において課題解決策を発表する研究発表会を行い、審査員および聴衆から高い評価を得た。

また、海外からの 10 名の参加者は「かめのり地球青少年サミットジャパン 2013」開催前の 10 月 28 日～11 月 1 日の 5 日間、国際交流基金関西国際センターの講師による「プレ日本語講座」に参加し、課題に基づいた討論や発表に必要な日本語を学習し、日本語でのプレゼンテーションを行った。また、大阪オリエンテーリング、京都見学や和太鼓等の文化体験も組み込まれ、参加者には大変好評であった。

### (4) 海外日本語教育サポート事業

平成 25 年度は以下の事業を実施および助成した。

- ① （独法）国際交流基金との共催事業「にほんご人フォーラム 2013」実施

学習者と教師の研修プログラム「にほんご人フォーラム 2013」を平成 25 年 9 月 10 日～19 日の間、国際交流基金日本語国際センターで実施した。本事業はこれからの社会で求められる能力の育成を組み込んだ外国語教育のモデルを創造して実践し、中等教育における「にほんご人」ネットワークを形成し、若い世代の相互理解の促進とグローバル人材の育成を目指して、中長期的な見通しで実施する。タイ、マレーシア、インドネシア、フィリピン、ベトナム、日本の 6 か国を対象に、高校生 24 名と中等教育機関の教師 11 名が、高校生セッション、教師セッションに分かれて活動する一方、教師は高校生セッションの観察を踏まえ、言語、文化、これからの社会で求められる能力を取り入れた授業を考える課題に取り組んだ。

高校生セッションは「便利」をテーマにグループで協働作業をし、最後に成果発表を行ったほか、関東国際高校への学校訪問、東京見学、日本文化体験等もおこない、6 か国の高校生が交流し、友好と相互理解を深めた。また、東南アジア各国で行われる選考、研修、およびフォローアップ事業も本事業に含めることとなった。

- ② 国際交流基金ベトナム日本文化交流センター「ベトナム中学生日本語キャンプ事業」への助成

ベトナムの中学生を対象に、教室活動では得られない日本語学習の楽しさを体感するとともに、既習語彙・文型の積極的な活用を促すことを目的に平成 25 年 8 月 4 日～6

日の3日間、ハノイ市郊外 Khoang Xanh Suoi Tien でベトナム4都市（ハノイ、ホーチミン、フエ、ダナン）の中学生46名と日本語教師計76名が参加し、キャンプを開催した。日本語でのオリエンテーリング、日本の伝統的な遊びの体験、ゲーム、キャンプファイヤー等の活動を通じて、他都市間の中学生、教師が交流し友情を深め、教室外で実際に日本語を使うことで、日本語学習の成果や楽しさを実感し、今後の日本語学習の意欲を高めた。参加者からは非常に高い満足度の結果が出て、十分な成果を収めることができた。

### ③ 同センター「ベトナム中等教育者訪日事業」への助成

ベトナムにおける日本語教育推進のため、平成26年3月1日～9日、11名の日本語を導入しているベトナム5都市9校の校長・教頭9名、教育訓練省職員2名に国際交流基金ベトナム事務所職員1名が随行した。荒川区立原中学校で授業参観、施設見学、先生方との意見交換、給食体験や川崎市立橘高校での施設見学、意見交換、茶道や友禅染体験、京都での世界遺産視察、国際交流基金を訪問した。また、当財団の職員とも意見交換会を持ち、最後に懇親会を持った。本事業によって、参加者は日本の教育事情のレベルの高さと日本人の心遣い等に強い印象を受けた。よって、日本および日本語教育に好感を抱く学校指導者を国内5都市に生んだことは、日本語教育の拡大と中長期的な効果をもたらすことを確信する。

## 3. 国際交流および人材育成の講演・セミナー事業

### (1) 異文化理解講演会

平成25年度の王敏理事による異文化理解講演会は、愛媛県農業教育者連盟協会総会（「なぜ中国で宮沢賢治が読まれているのか」平成25年7月26日実施）で実施した。農業教育に従事する教職員を対象に、農業とかかわりの深かった賢治について王敏理事から中国での賢治研究に関する現状も含め紹介された。講演開催時に団体へ、王敏理事著書の寄贈もあわせて行った。

### (2) かめのりフォーラム

「かめのりフォーラム2014」を平成26年1月10日に開催した。第1部はかめのり奨学生の体験発表、そして「未来を拓くグローバル人材」をテーマに渋澤健氏（コモンズ投資（株）取締役会長、（公財）日本国際交流センター理事長）からゲストスピーチがあり、グローバル人材に求められるものは何かについての講演は、聴衆から大変好評であった。

## 4. 国際交流および人材育成に関する顕彰事業

交換留学、日本語教育、そして文化・スポーツの交流に草の根で貢献している団体・個人の活動を顕彰する「かめのり賞」の受賞団体を選考し、以下の9団体・1個人に第7回かめのり賞を表彰し、正賞の記念の楯と副賞として50万円の活動奨励金を贈呈した。

【第7回かめのり賞受賞団体】（敬称略）

（特）アクション

（特）アジアの子どもたちの就学を支援する会  
アジアの留学生と交流する会

（特）国際交流ハーティ港南台  
ステップ国際理解

（特）地球市民ACTかながわ/TPAK

（特）てのひら・人身売買に立ち向かう会

（特）日本ネパール女性教育協会

（公財）PHD協会

夏目長門

5. その他

(1) 広報活動の強化

継続的にホームページの充実を図るとともに、当財団の活動を関係団体はじめ広く周知するために、事業活動を紹介するニュースレター「かめのりコミュニティ」を7月、12月、3月と年3回発行した。

(2) ITの整備

いままで奨学金を支給していた過去の奨学生に関して現状を把握して、継続的にかめのり財団との関係をつなげるべく、OB.OGのネットワークづくりのため、引き続きIT環境の整備を行った。

以上